



# 三重県の南北地域格差について

## 質問

三重県南部地域は県北部地域と異なり人口減少や少子化が著しく多くの問題を抱えている。南部地域の発展に

は、農林水産業の新しい発展や観光産業などの発展と合わせた普及がもたられているが知事の考えを伺う。

## 一見知事答弁

南部地域には、多くの魅力あふれる農林水産物や、伊勢神宮、熊野古道といった人々を魅了する歴史や文化など多くの素晴らしい観光コンテンツがあります。こうした南部地域ならではの魅力を高めながら、雇用を生み出す好循環をつくることで地域の活性化へとつなげていきたいと考えています。

近畿自動車道紀勢線の延伸による物流の効率化というチャンスも生かして、農林水産業と観光業の振興だけでは無く、総合的かつ大胆に県のあらゆる分野の施策を総動員して、南部地域活性化に向けた取り組みを強力に進めます。

# 危機管理体制の強化策について

## 質問

大災害時(南海トラフ地震)発生時に備えるような常設の危機管理センター(防災センター)がありませんか

が、知事の常設の危機管理センターの必要性についての考えを伺う。

## 一見知事答弁

災害対策本部を速やかに立ち上げ、対応を行うための常設の場所は必要不可欠であると考えている。しかし現在は、県庁講堂を活用することとしている。

常設の防災センターは、初動対応の迅速性をより一層高めることが期待できるものと考えている。しかし、施設整備に

は、多額の費用を要することや場所の確保も必要になるため、中長期的な視点で検討していくものと考えている。常設の災害対応施設の必要性については痛感しているが、まずは現在の体制において、迅速かつ的確な災害対応ができるよう、しっかりと取り組んでいく。

# 県政に対する一般質問



中瀬信之議員が質問

一見勝之知事が答弁

# 県産木材の公共土木事業での拡大について

## 質問

「三重の木づかい条例」が4月1日に施行されました。条例の施行に伴い県産木材の利用

促進について意識が高まる要因になると考える。公共土木工事に計画的な県産木材の利用拡大について伺う。

## 水野部長答弁

三重県では、この分野で遅れを取っているのが現状であり、4月に施行された「三重

の木づかい条例」を起爆剤として、積極的かつ計画的な利用を推進する。より実効性のある取組みとするために、今後5年間における利用計画を策定し、県産木材の使用を原則とする土木工事の種類を定め、工事発注の条件とする。また、5年で終わることなく、継続的に、さらなる進化をとげていくことが重要です。

この5年間で他県に追いつき、追い越す意気込みで、そして、次の5年間で、トップランナーになることを目指し県産木材の利用を推進します。

# 三重とこわか国体・三重とこわか大会のレガシーづくりについて

## 質問

国体・障がい者大会が中止という大きな決断を下したが、この10年間積み重ねた、選手強化や

施設の整備や大会運営のノウハウなど多くの知恵がある。今後の三重県スポーツの振興に向けた考えを伺う。

## 辻局長答弁

本県では、約10年間にわたる両大会の開催準備の中で、スポーツの分野において、ハード・ソフト両面でさまざまな財産が生み

出され培われた。今後の取組みとして、市町、競技団体と一緒に本県の地域スポーツの推進やスポーツを通じた地域づくりに取り組みたい。

# 令和3年度所属常任委員会の報告

## 環境生活農林水産常任委員会 副委員長

生活文化行政の推進、環境保全の推進、廃棄物対策、農林水産業の振興などについて、審査・調査します。

- 新型コロナウイルス感染症による影響と今後の対策について
- 脱炭素社会について
- 豚熱及び獣害への対応について
- 三重県産材の利用促進について
- 漁場環境の変化への対応について

## 【今年度の委員会の重点調査項目】

## 委員会県内調査(7/28・8/4)

- ◇中央家畜保健衛生所(津市)  
《豚熱発生にかかる検査態勢及び感染症防止等の取組みについて》  
豚熱に感染した野生イノシシは、県下全域に確認され、11月8日現在で県内551例目の確認となりました。  
県は野生イノシシに対する豚熱経口ワクチンの散布を実施している。
- ◇ヴィソン多気(株)(多気町)  
県産材を活用した建築物及び農産物マルシェの取組みについて
- ◇(株)大栄工業三谷工場(伊賀市)  
バイオガス発電による再生エネルギー活用取組みについて食品廃棄物を堆肥化およびメタン化として再生利用に取り組んでいる。
- ◇三重県水産研究所鈴鹿水産研究室(鈴鹿市)  
水産業を取り巻く環境分析と地球温暖化等に対応する品種開発等の取組みについて  
ノリの色落ちによる養殖収穫量の減少や、アサリをはじめとする沿岸水産資源の減少、海水の高温化や磯焼けによる海藻類による不漁など、漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。伊勢湾の貧酸素の及ぼす影響について、貧酸素情報の発行をおこなっている。
- ◇パラミタミュージアム(菟野町)  
新型コロナウイルス感染拡大に伴う文化芸術施設への影響と取組みについて  
来館客への新型コロナ対策や取組みについて意見交換、展示会の中止や規模の縮小が続いている。
- ◇松葉ピッグファーム(いなべ市)  
豚熱による感染防止対策及び消費拡大のための取組みについて  
2年前の豚熱発生による飼育豚の殺処分(4,200頭)の実施と再建への道のりについて  
県が販促キャンペーンを実施



議事堂 環境生活農林水産常任委員会室にて

# 三重の木づかい条例(議員提出条例)可決

令和3年4月1日施行(条例制定の委員(11名)として参加していました)

令和2年1月に「三重県産材利用促進に関する条例検討会」を設置し、木材利用に関わる委員会(11名)を令和2年1月15日の第1回から令和3年2月26日の第20回の間多くの議論を踏まえようやく可決・成立しました。条例では、県産材の利用を最も優先することを掲げ、木材利用の推進に関して、基本理念や責務、県の取組みなどについて定めています。ウッドショックと言われる中、今後益々の県産材の利用促進を加速させていきます。



議事堂にて(三重の木づかい条例説明会)

## 伊勢茶の魅力の発信と販売拡大を願いおいしい伊勢茶の淹れ方教室開催(3/5)

伊勢茶の進捗に寄与するため、三重県議会議事堂エントランスホールにおいて、三重県議会議事堂と三重県茶業会議所と共催で、「お茶の淹れ方教室」を開催しました。飯南高校の美術部の生徒によるお茶ラテのラテアートの実演を通じて新たな伊勢茶の楽しみ方をしました。  
コロナ禍の中、消費減少による新茶の売れ行きは低迷しています。全国3位のお茶の生産地である三重県のさらなる販促拡大を目標に県下一丸となって販促強化を進めます。



## 三県交流会議(三重県・奈良県・和歌山県)多気郡大台町フォレストピアで開催(7/21)

交流は、三県議会の議員が一堂に会し、紀伊半島の振興及び発展に資するよう、各県が直面している共通課題について意見交換を行い、各県議会議員の連携・交流を図るもので、今年度は三県議会から21名の議員が出席しました。  
三県交流会議で、議論された内容は  
(1)ワーケーションの推進について  
(2)紀伊半島アンカールートの整備促進による国土強靱化及び地方創生の推進について  
(3)公共事業における木材の活用について  
上記議題について、三県の現状と課題、取組状況を報告し三県で連携できることを取り纏めました。三県議会が連携し国に要望していくことで合意しました。

